

熊楠ワークス

/ C / O / N / T / E / N / T / S /

第11回南方熊楠賞授賞式 1面

南方文枝さん一周忌 2~4面

特集 南方を訪ねて
イン・ロンドン 5~7面

熊楠ゆかりの地を訪ねる/

引作の大楠(三重県御浜町) 7面

vol
17

読むたび感じいる つづき

「平生暇さえあらば除かに力を致しおきて然るべしと惟ふ」。

『えほん南方熊楠十二支ばなし』の129ページのことば。「そうだそうだ、ふだんから暇さえあれば英語のニュースを聞くとか、英語の本を読むとかしておけば、少しは役にたったのに…」とか「そうだそうだ、暇な時に資料を読んでおけばよかった、この忙しいときに一から調べなくてはならないトホホ」とか「ふだんからコツコツ身の回りのものをテッサンしておけばよかった、そうすればこんなものは見ないでもすぐに描けるのに…」とか、後悔しきりな毎日だ…。わかっていても、実行は難しいのです、クマグス先生！

「もと心の一定せぬものは思い惑うて心身を疲らし何一つ成らぬ」。

ホントそのとおり、先生。

「いくら社会が平等になっても人々の好みと精力が平等にもならず…」

一タクおっしゃるとおりです、クマグス先生と、

今だに読むたびひとり感じいつているワタクシです。



絵・エッセイ/
松下千恵(わかやま絵本の会代表)
絵は絵本『南方熊楠』から

「(ロンドンで)…毎日毎日キュウリのつけものだけの食事だったこともあるそうです。住むところも、…馬小屋の二階で暮らしたのが一番長かったといわれています」